

キャラクター名 プレイヤー名

ニミット

メインクラス	シーフ	Lv.1:		レベル	7
サポートクラス	バード	Lv.1:	バード	性別	女
称号クラス				年齢	29
種族	フィルボル			境遇	義理の親
出自 (効果)	魔術師			目標	無目的

	筋力	器用	敏捷	知力	感知	精神	幸運
基本値	15	12	15	7	13	12	9
ボーナス	5	4	5	2	4	4	3
クラス修正	0	1	1	0	2	1	1
他修正	1						
能力値	6	5	6	2	6	5	4

HP	73
MP	66
フェイト	5

装備品		射程	命中	攻撃	回避	物防	魔防	行動	移動
右手	リターンエッジ			7					
左手	軽銀の盾		0	0	0	5	0	1	1
頭部	風音の帽子				2			2	
胴部	フィルボトラベルジャケット				2	4		2	
補助	旅のタリスマン								
装身具	高級楽器								
能力値			5	0	6	0	5	12	11
スキル								3	
その他									
総計(右)			5	7					
総計(左)			5	0	10	9	5	20	12
総計(両)									m
ダイス数			3 d	2 d	3 d				

	能力値	スキル	その他	合計	ダイス数
トラップ探知	6			6	+ 3 d
トラップ解除	5		1	6	+ 2 d
危険感知	6			6	+ 2 d
エネミー識別	2			2	+ 2 d
アイテム鑑定	2			2	+ 2 d
魔術判定					+ d
呪歌判定	5			5	+ 2 d
錬金術判定					+ d

所持品	
HPポーション*3	
MPポーション*10	
バックパック	
ベルトポーチ	
冒険者セット	
毒消し*3	
シーブズツール	
ポーションホルダー	

現在重量:	22	所持金:	7946	預金・借金:	
最大重量:	42				

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ニンプル	★	-	パッシヴ	-	自身	-		
効果: 作成時に行動値+3								
ワイドアタック	1	4	メジャー	武器	範囲(選択)	命中		
効果: 武器攻撃を行う。2体以上を対象に取ったらダメージ+[SLx2]								
バタフライダンス	★		パッシヴ		自身			
効果: 回避+1D								
ストライクスロー	3		パッシヴ		自身			
効果: 投射ダメージ+[SLx4]、射程+10m								
エチュード	5	4	メジャー	20m	範囲	呪歌		
効果: ダメージ+[SLx2]								
ジョイフルジョイフル	1	7	メジャー	20m	単体	呪歌	シーンSL回	
効果: 未行動状態にする								
アームズマスタリー:短剣	★		パッシヴ		自身			
効果: 短剣装備時命中+1d								
アレグロ	5		パッシヴ		自身			
効果: 呪歌判定+[SLx2]								
ファイトソング	1		セットアップ	20m	単体※	自動成功	シナリオ1回	
効果: シナリオ1回スキルの使用回数回復。								
ディスコード	3	4	ダメージロール直前	20m	単体	自動成功	ラウンド1回	
効果: 対象の与えるダメージ+[SLd]								
インタラプト	1		効果参照	視界	単体	自動成功	シナリオ1回	
効果: 対象が使用したスキルを打ち消す								
クイックソング	1	10	セットアップ		自身	自動成功	シーンSL回	
効果: メジャー呪歌をセットアップで使用								
ファインドトラップ	1		パッシヴ		自身			
効果: トラップ探知+1D								
マジックノウリッジ	1		パッシヴ		自身			
効果: 魔法関連の知識ロール+1d								
エンラージリミット	1		パッシヴ		自身			
効果: 携帯品の所持量を筋力基礎値*2に								

ニミット・エーリクス
ある高名なエルダナーンの魔女に拾われた孤児として過ごす中、お師匠様は他種族の寿命感覚がわからないのでずっと彼女を子供だと思って育てていた。フィルボルであるニミットはぶっちゃけとくに大人だったが、ぶっちゃけ楽に生きていけるので出来の悪くて懐っこい子供のように振る舞って見習いの小僧として暮らしていた。中世的で小柄な外見の合法ショタ。本人に魔法を学ぶ気は1ミリもなかったのが気楽なものである。

ある日ついにバレた。目鼻立ちの美しいニミットは魔女様によって「いつかイケメンに成長して師匠をちやほやしてくれる予定の弟子」だったのだが、ぶっちゃけ大きくはならないし、そもそも女の子だった。

その日のうちにたたき出された彼女は路銀を稼ぎつつ放浪の旅をするハメになったが、まあ気楽なものである。だって、お師匠様に拾われる前から、そうやって過ごしていたんだし。

「あんたちっとも育ちゃしないねえ」
「お師匠様がもちょっといいもん食わしてくれれば〜」
「ったく、口の減らない子だねえ」

近況
冒険者になったはいが、入ったギルドがろくでなしばかりでとても楽をさせてもらえそうにはない。自力で生きていけるよう、持ち前の器用さを生かして投げナイフの練習を始めたようだ。

